

二〇二五年度
【博士後期課程】

早稲田大学大学院文学研究科
専門科目 東洋史学 コース

入学試験問題
※解答は別紙（縦書）

「一」～「五」から二問を選択して解答しなさい。解答に際しては、解答用紙に選択した問題番号を明記し、そのうえで解答しなさい。漢字は常用漢字で表記してよい。

「一」 次の文章を読み、問題①～③に答えなさい。

上罷布軍歸，民道遮行，上書言相國彊賤買民田宅數千人。上至，何（蕭何のこと——出題者補）謁。上笑曰「今相國乃利民」。民所上書皆以與何，曰「君自謝民」。後何為民請曰「長安地陝，上林中多空地，棄，願令民得入田，毋收粟為獸食」。上大怒曰「相國多受（△賈）人財物，為請吾苑」。乃下何廷尉，械繫之。數日，王衛尉侍，前問曰「相國胡大罪，陛下繫之暴也」。上曰「吾聞李斯相秦皇帝，有善歸主，有惡自予。今相國多受買豎金，為請吾苑，以自媚於民。故繫治之」。王衛尉曰「夫職事苟有便於民而請之，真宰相事也。陛下奈何乃疑相國受買人錢乎。且陛下距楚數歲，陳豨・（B）黥布反時，陛下自將往，當是時相國守關中，關中搖足則關西非陛下有也。相國不以此時為利，乃利買人之金乎。且秦以不聞其過亡天下，夫李斯之分過，又何足法哉。陛下何疑宰相之淺也」。上不懌。是日，使使持節赦出何。何年老，素恭謹，徒跣入謝。上曰「相國休矣。相國為民請吾苑不許，我不過為桀紂主，而相國為賢相。吾故繫相國，欲令百姓聞吾過」。

問題① 史料の全文を現代日本語に翻訳しなさい。

問題② 傍線部（A）に関して、当時の「賈人」の社会的な位置づけについて論じなさい。

問題③ 傍線部（B）に関して、黥布はなぜ叛乱したのか。その原因について論じなさい。

「二」 次の文章を読み、問題①～④に答えなさい。

随末有萊州刺史祢善者。盖東漢平原处士之後也。知（△天獸隨德、乘桴竄海、遂至（B）百濟國。王中其說、立為丞相、以國聽之。洎子寔進、世官象賢也。有唐受命、東討不庭、即引其王、歸義于高宗皇帝。由是拜左威衛大將軍、封來遠郡開國公。父子之事、珠所會時也。去就之理、合所由道也。語云、賢者避地。書云、必有忍、其乃有濟。傳曰、不在其身、其在後嗣。是之謂乎。寔進有素士、襲父封、仕至左武衛衛將軍。

君諱仁秀、即武衛府君之長子也。少以將種、銀印赤紱、累授明威將軍・右驍衛衛郎將。尋以元帥連坐、左為（C）秦州三度府果毅、歷（C）汝州梁川府果毅・虢州金門府折衝。稟命不遐、開元十五年終於臨洮軍之官舍、為壽五十三矣。

問題① 史料の全文を現代日本語に翻訳しなさい。

問題② 傍線部A「天獸隨德」は何を意味するか。史料の時代的背景をふまえて答えなさい。

問題③ 傍線部B「百濟國」はどのような王朝か。中国王朝との関係をふまえて論じなさい。

問題④ 傍線部Cのような官歴をもつ本文の主人公は、どのような階層に属する人物と考えられるか。主人公の出自や属性に注目して論じなさい。

「三」次の文章を読み、問題①と問題②に答えなさい。

三年八月己酉、文宗崩、燕鐵木兒請文宗後立太子燕帖古思、後不從、而命立明宗次子懿璘只班、是為寧宗。十一月壬辰、寧宗崩、燕鐵木兒復請立燕帖古思、文宗後曰、「吾子尚幼、妥歡貼睦爾在廣西、今年十三矣、且明宗之長子、禮當立之。」乃命中書左丞闊裏吉思迎帝於靜江。至良鄉、具鹵簿以迓之。燕鐵木兒既見帝、並馬徐行、具陳迎立之意。帝幼且畏之、一無所答。於是燕鐵木兒疑之、故帝至京、久不得立。適太史亦言帝不可立、立則天下亂、以故議未決。遷延者數月、國事皆決於燕鐵木兒、奏文宗後而行之。俄而燕鐵木兒死、後乃與大臣定議立帝、且曰、「萬歲之後、其傳位於燕帖古思、若武宗、仁宗故事。」諸王宗戚奉上璽綬勸進。洪惟我太祖皇帝、受命於天、肇造區夏。世祖皇帝、奄有四海、治功大備。列聖相傳、丕承前烈。我皇祖武宗皇帝入纂大統、及致和之季、皇考明宗皇帝遠居朔漠、劄牙篤皇帝戡定內難、讓以天下。我皇考賓天、劄牙篤皇帝復正宸極。治化方隆、奄棄臣庶。今皇太后召大臣燕鐵木兒、伯顏等曰、「昔者闊徹伯、脫脫木兒、只兒哈郎等謀逆、以明宗太子為名、又先為八不沙始以妒忌、妄構誣言、疏離骨肉。逆臣等既正其罪、太子遂遷於外。劄牙篤皇帝後知其妄。尋至大漸、顧命有曰、『朕之大位、其以朕兄子繼之。』」時以朕遠征南服、以朕弟懿璘只班登大位、以安百姓、乃遽至大故。皇太后體承劄牙篤皇帝遺意、以武宗皇帝之元孫、明宗皇帝之世嫡、以賢以長、在予一人、遣使迎還。征集宗室諸王來會、合辭推戴。今奉皇太后勅進之篤、宗親大臣懇請之至、以至順四年六月初八日、即皇帝位於上都。於戲！惟天、惟祖宗全付予有家、栗栗危懼、若涉淵冰、罔知攸濟。尚賴宗親臣鄰、交修不逮、以底隆平。其赦天下。

問題① 史料の全文を現代日本語に訳しなさい。

問題② 史料に記される一連の出来事が、大元ウルス（元朝）の歴史上もつ重要性について述べなさい。

「四」次の文章を読み、問題①と問題②に答えなさい。

今將黑龍江左岸、北自精奇里河、南至霍勒其爾河、其中原居滿洲屯戶、仍令原舊不違安展、其餘空曠地方、均與俄國為界、以便屯兵防範。其夷其額爾古納河、黑龍江、烏蘇里江、松花江至海、凡沿岸一半屬中國、一半屬俄國為界。江中只准我兩國人船行走、不准他國往來等語。臣伏思疊奉諭旨、均以不敵邊釁為憂、而俄人頻屢由江往來、起屋屯兵、多備糧械、又聲言夏間加派兵船續來、以防其夷、意殊叵測。現在內省賊氛未靖、軍餉支絀、吉林、黑龍江兩省兵丁出征未回、糧運艱阻、兵端再四思維、與其張皇於事後、莫若慎密於事前。查所議請、黑龍江左岸舊民屯居之外、空曠地方、給與存居、及江中准其行船、均與我屯丁耕作生計無妨。暫還其欲、庶可免生枝節。

問題① 史料の全文を現代日本語に訳しなさい。

問題② 傍線部「防範夷」および「内省賊氛未靖」とは、それぞれのどのような歴史状況を踏まえて書かれている言葉か、説明しなさい。

「五」 次の文章を読み、問題①と問題②に答えなさい。

The levirate was forbidden in 1631 and 1636 by Hongtaiji. Although the ban was ignored in the marriages of Hongtaiji's half sister Mukushi to Eidu and then to his son, Turgei, and the sequential marriages of Hongtaiji's daughter Maketa to two sons of Ligdan Khan (1636, 1648), it held for the rest of the dynasty. The Manchus tolerated cross-generational marriages, which Chinese avoided, and like the Mongols they favored matrilineal cross-cousin marriages (marrying mother's brother's daughter), and the sororate (marriage to sisters). The result was a very dense kinship network within the women's chambers in the palace. Isaac Headland, describing the court of Empress Dowager Cixi, notes that among her ladies in waiting were an adopted daughter, born to her brother-in-law Yixin (Prince Gong); a niece; and another niece by marriage. The density of these interlocking relationships would not have been untoward two centuries earlier, in the Shunzhi reign, when Fulin's first empress was the niece and his second empress the grandniece of one of his father's empresses.

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

Used with permission of University of California Press from "The Last Emperors: A Social History of Qing Imperial Institutions" by Evelyn S. Rawski, 1998, p.130; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

問題① 史料の全文を日本語訳しなさい。
問題② 下線部のような禁令が出された理由について、当時の歴史状況を踏まえて説明しなさい。

問題番号「」

——ここから記入すること——

受験番号	
氏名	カナ
	漢字

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。
漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること。

東洋史学コース
専門科目

総 点

--

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

———ここから記入すること———

(裏へ続く)

問題番号「」

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

———
ここから記入すること
———

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——